
原作キャラで作ったハーレムが修羅場な件について相談したい訳だが

勦b

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

原作キャラで作ったハーレムが修羅場な件について相談したい訳だが

【Nコード】

N9460Z

【作者名】

勦b

【あらすじ】

「転生したからハーレムを作ろう」

そんな甘い考えをしてた過去の自分を全力で殴りたい。

そんな転生者の話

俺のキャラ紹介というなのプロローグ

転生しました

何を言ってるかわからないだろ？

自分でもわからない

とにかく、俺は転生者だ。

そして転生する時に能力を貰えたんだけど……

俺は魅力チャームの魔法を貰った

この魔法はごく一部のキャラにしか使えない（神様のケチ）

使えるキャラは、なのは、フェイト、はやて、だ

充分じゃん！

よし、今すぐ転生してハーレムを作ろう

そう思ってた時期が俺にもありました

話をしよう

あれは今から10年前

いや、8年前かな

とにかく、俺が小学生の時の話だ。

彼女、高町なのはの部屋に誘われたんだ。

もちろん、既に魅力チャームの魔法は使っている。

心配するな、問題ない

なのはと俺は仲良く話していた

懐かしい

あの頃が懐かしい

……今は

「ねえ、魅神君、何で部屋から出てきてくれないのかな？」

そう言っつて俺の部屋にある扉を力強く何度も叩くのは。

どうしてこうなった!?

ああ、そうそう、俺の名前は魅神 悠紀よろしくな。

今俺は六課にある自室にたてこもっている。

「怒らないから出てきてよ魅神君!」

理由は説明しなくてもいいよな。

「魅神君は何でわたし以外の人と仲良くしてたのかな？ 教えてよ魅神君！！」

怖いよ！ お願いだから扉をそんな強く叩かないで！！

『マスターが浮気をするから』

「あれは浮気になるの！？」

ただ、道を教えただけだぜ！！

「つーか、この状況を何とかしてくれよブレイズ！」

『無理だ、お前に魔力があれば可能だがな』

俺は自身に付けている腕輪型のデバイスに言われている通り魔力が無い。

それでも転生者なんだぜ？

戦闘力0の転生者って何だよ！！

『お前が魅力チャームの魔法なんて下らないモノを手にするからだ』

「こいつなるなんて知らなかったからな！」

強すぎるんだよ！ 俺はそんな鈍感系主人公じゃないからここま

でされなくても好意に気付く自身あるからな！
むしろ、敏感系主人公だからな！！

『主人公じゃないだろ』

「うるせええ！！」

黙れよデバイス！

使えないくせによ！！

使えないくせによ！！

大事なことだから2回言ってやったよ！！

『お前が使えないから、しかたがないだろ』

「怖いわー 何でもかんでも人のせいにする最近の若者マジ怖い
わー」

『高町、こいつは浮気をしたぞ』

「すいません、謝りますからマジ勘弁してください」

大声で嘘を言おうとする腕輪デバイスに土下座をする男がいた。
「つか、俺だ。」

『全く……神様からのプレゼントである私を馬鹿にするとはな』

「ブレイズさんには何時もお世話になってます」

「というか、何でこいつは地の文を読んでんだよ。」

『神からのプレゼントだからな』

ドヤ顔するな。

「魅神君、そろそろ出てこないと怒るよ」

『収束魔法を撃つ準備を始めたぞ』

「な、なのは!!」

俺は部屋から慌てて出る。

「魅神君やっと出てきてくれたね。

それで、あの女は何なの？

魅神君に近づこうとする女だったら

「み、道を教えたんだよ!」

怖い!

目がマジだ!!

「……………本当に?」

「お、俺がなのはに嘘つくはずがないだろ!!」

嘘ついたら殺されそうだしさ!

「……………そっか」

なのはは短く言うと俺に背を向けて歩きだす。

「それじゃ、わたしは訓練に戻るね」

こ、恐かった。

『選択を誤ったら死んでたぞ』

「マジで!?! ……いや、そりゃそうだな」

……俺も仕事に戻らないとな。

『事務仕事をするしか価値が無い人間だからな』

「黙れ!?!」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9460z/>

原作キャラで作ったハーレムが修羅場な件について相談したい訳だが

2011年12月29日16時47分発行